

テーマ 「デザインする力を高めるための教科指導の在り方」

1. テーマ設定の理由

豊かなスポーツライフを実現するためには、単純に与えられた環境、与えられたルール、与えられた練習方法でスポーツに関わるだけでなく自分自身の技能を高める計画を自分でつくり、ルールや道具を工夫し、スポーツする環境や設備、組織をデザインすることが大切である。このようなデザインする力を支える根底は「思考力」である。生涯にわたって仲間とともに運動を実践し、豊かなスポーツライフを実践するために「思考力」は重要なキーワードとなる。仲間とともにうまくなるためには、うまくなる道筋や練習方法を論理的に導きだす「思考力」が必要である。より楽しむためにルールを工夫したり、道具を工夫したりするためにも「思考力」は必要である。スポーツを行う環境や設備を整え、総合型地域スポーツクラブなどの組織を運営し主体的にスポーツに関わるにも「思考力」はかせないであろう。

保健体育科では、これまでも「思考力・表現力を高めるための教科指導の在り方」をテーマに研究を進め、授業において「説明する活動」を取り入れる工夫を行ってきた。お互いに説明し合うことで、技能の高まりが見られたり、思考の深まりが見られたりしたのは成果のひとつである。

しかし、説明する内容に注目してみると、思考の道筋が見えない生徒や思考の深まりが見られない生徒がいたことも事実である。生徒の解釈が十分でなく、思考力を身に付けさせる教師の投げかけ方の工夫や説明する活動の基盤となる思考力を身に付けるような授業づくりが必要であると考えた。

そこで本年度は、「デザインする力を高めるための教科指導の在り方」をテーマに掲げて、保健体育科における論理的思考力を高めるための取り組みを進めていきたいと考えている。

2. 本年度の研究について

デザインする力を支えるものは柔軟な思考力である。そして、柔軟な思考力を支えるのは豊かな発想力であるが、豊かな発想力は突然どこかから現れるものではない。論理的に思考する、基礎的・基本的な力が身に付いてこそ現れ、思考はより深まるものである。そこで本年度は論理的に思考する、基礎的・基本的なスキルにフォーカスした。

運動と思考をつなぐためには、子ども自身が「なぜできないのか」「うまくいく方法はないのか」「どうすれば勝てるのか」など個人あるいはグループの課題を意識したときに、はじめて「どうしたらよいか」という切実感や問題意識が生まれてくる。運動と思考をつなぐために、どのような教材や状況設定が適切か、発達との関連はいかにあるべきかなど、様々な要素を加味しながら授業を組み立て、仕組む必要がある。

研究1年目にあたる本年度は「思考する必然性を生み出す授業展開」と「思考スキル」の2点を大切に授業を組み立てたい。保健体育科では論理的に考える力を、『自己やチームの課題を設定し、課題に応じた練習方法を考え、教え合いながら技能を修正し、技能の伸びを分析できること』と捉えた。そう捉えると、思考力・判断力・表現力・課題発見能力・課題解決能力・学び方・知識技能・学ぶ意欲は、これまで保健体育科が生徒と共に考え、授業をつくっていく中で少しずつ育まれてきたと感じている。体育の授業では今まで意識することなくこれらの活動を行ってきた。現教提案より論理的に思考するための思考スキルを以下の8つに分類し思考スキルを定義づけた。「分類する」「関係づける」「比較する」「順序づける」「類推する」「構想する」「評価する」「要約する」の8つである。これらの思考スキルが体育の授業ではどのような場面で用いられるかを体育科としては下の表のように考えた。

本年度はより一層そういった力を高めるために、上に述べた8つの思考スキルを用いることで、教師も生徒も何のためにそれらの思考スキルを用いるのかを意識して取り組みたい。生徒自身が自らの課題を設定し、その解決に向けて仲間と教え合い、練習を工夫し、そこで得た情報をさらに次の課題解決に生かす

というサイクルを大切にしたい。そうすることでデザインする（構想する）力が高まり、柔軟な思考力が高まると仮定した。

表：柔軟な思考力を身に付けるために大切な思考スキル

	思考スキル	教科としてのとらえ方	活動の具体例
1	分類する	・グループ分けすることで、技能の持つ機能的特性を明らかにする。	・うつしの段階において、自己に合った技能を選んだり、まとめたりする。
2	関係づける	・技能同士や自己と技能の関係について考える。	・技能の特性を捉え、つながりや関係に気付くことで、自己に合った課題を設定する。
3	比較する	・技能、仲間、場、できばえ等との比較を通して考える。	・多様なものとの比較を通して、自己の課題を見直し、課題解決のポイントに気づく。
4	順序づける	・課題解決に向け必要な情報の順序や必要性を考える。	・課題解決への道筋を立てて、練習内容を計画する。
5	類推する	・練習の中で得た情報や技能が、課題解決に向けたものかを考える。	・学習ノートやアドバイスカードから課題解決に必要な情報を整理する。
6	構想する	・練習の振り返りから、次の課題やより効果的な練習方法を改めて設定する。	・課題解決への道筋を振り返り、論理的思考に基づいた練習を再度計画する。
7	評価する	・自己の取り組みが、根拠や理由に沿って考えられたものかを分析する。	・練習計画や1時間の授業から、どんな力が身についたかを仲間と共に実感する。
8	要約する	・単元の持つ楽しさや特性を味わうことができたか考える。	・班会議や全体会から、自己と運動との関わりに気づき、今後の取り組みに活かす。

3. 成果と課題

「仲間とともに育む柔軟な思考力」～基盤となる論理的思考力を高める授業づくり～というテーマで研究を進めてきた。保健体育科としては、この論理的な思考力を「学びをデザインする力」と捉え、「デザインする力を高めるための教科指導の在り方」というテーマ設定を行った。さらに、課題解決力と仲間との関わり（協同学習）を指導の柱とし、この大切な柱の上に生徒の力を伸ばす鍵があると考えている。

今年度は、8つの思考スキルを授業の中で活用させることにより、論理的思考力を高めることができると仮定しての取り組みであった。柔道・創作ダンスと2つの領域において実践を行ったが、やはりどちらの領域においてもこの8つの思考スキルがしっかりと当てはまった訳でなく、こちらのねらい通りの授業展開が容易に進められた訳ではない。教科の特性上、暗黙知による運動や表現など生徒自身が本来持っているものに寄与する場面も少なからずあったように思う。その上で、生徒が活動を振り返ったときにそれがどういったものであったのかを考えさせる手だてや仕掛けを多く取り入れ、思考力を高める実践へと結びつけていった。学習ノート・アドバイスカード・班会議・全体会などがそれである。1時間の授業を振り返ったときに、課題の設定は適切であったか。課題解決のための練習方法を工夫できたか。仲間との教え合いや学び合いから、さらに自分に戻せる材料はあったか。自ら考えたいと感じる現象は起こったかなど、教師が仕掛けることにより、生徒の思考力はより質の高いものになっていったように思われる。さらに、そのような活動の中で今度は自然と思考に基づく身体活動が生まれてきたのは大きな成果ではないかと考えている。

どちらの領域においても、教師が単元内容をしっかりと理解し、単元計画がデザインできていること。何を身に付けさせたいか、味わわせたいのかを明らかにしていること。そして、上で述べたように、生徒の動きや姿をイメージして、論理的思考力を高めるための仕掛けや手だてをしっかりと準備できているかどうか重要であると改めて感じる事ができた。

一方で、思考スキルを意識させることが、はたして生徒が主体的に考えることに繋がるのかという課題も見つかった。どのような思考力を働かせるかは生徒が決定するものであり、個々の課題によっても当然変わるであろう。考えたいと思わせる場をつくり出すこと、考えざるを得ない現象を与えることの方が自主的に思考する生徒を育てるのではないかという視点も出てきているところである。思考スキルを身に付けさせることが目的ではなく、保健体育のおもしろさや、特性を味わうための手段のひとつであることも改めて感じた。

次年度は、「多面的に考える力を高める授業づくり」という、よりレベルの高いテーマで研究を進める予定である。今年度の実践から成果として得られたもの、課題となったものをしっかりと整理することで、さらに生徒が主体的に考え生き生きと活動する授業を目指していきたい。



【全体会 電子黒板を用いて】



【相手を崩して本気で投げる】



【班会議 自分たちで課題解決】



【全身を使ってイメージを表現】

1. 単元名 ダンス（創作ダンス）

2. 単元観

本年度よりダンスが必修化され注目を浴びているが、本校では以前より、1年生から3年生まで毎年授業でダンスに取り組んでいる。それ以外にも地域の行事にも参加しており、本年度は1年生が中心となり有志で振り付けた紀州踊り「ぶんだら」で「技あり賞」を受賞している。生徒達はリズムに合わせて体を動かす事は好きであるが、イメージしたものを身体で表現するというのは初めてのことであり、しかも思春期のこの時期、それぞれの心を解放させることは大変なことではあると思うが、感受性の強い今だからこそ、創作ダンスに取り組ませてみたいと考えた。

創作ダンスは個人や集団で表したいイメージをとらえて踊り、メリハリのあるひとながれの動きや、簡単な作品などにまとめて表現する運動である。イメージは、自然や生活・感情などにわたるが、走る、跳ぶ、回る、伸びる、縮む、などの全身や部分の動き、集まる、離れるなどの群れの動きを用いて多様に表現する。また、ダイナミックで多様な運動を用いて表現したり、心身を投じて踊るところに特徴がある。こうした運動特性は、創造的なコミュニケーション体験から、仲間との親しい関わりや共感が味わえたり、自己を解放し、豊かにイメージする力や創造的な問題解決力が育まれる。それゆえ、だれもが心を解放させ、のびのびと表現し仲間と共感しあって踊り、また見せ合って表現を分かちあう喜びが味わえる授業の工夫が必要とされる。

はじめて出会うダンス単元であるので、見通しをしっかりと持ち、自分の課題解決のための道筋がイメージでき、全体から各時間の動きが自分たちでデザインできる力をつけてやるのが、大切だと思っている。そこでまず、オリエンテーションではDVDの映像や資料を十分に提示しながら、学習内容を身につけさせたり、流れがイメージできるように工夫したい。そしてはじめは、興味・関心を引き出すために生徒達の好きなリズムカルな音楽を用いて、リズムに合わせて体を動かす事からスタートさせたいと計画した。

また課題の持たせ方の工夫をするために身の回りの課題を具体的に提示して、個人や班の個性を發揮してひとながれの動きで、意欲的に取り組めるようにしたい。そしてその成果を解決するために、お互いの動きを見せ合わせる場面をたくさん仕掛けて、お互いのすべてを認め合わせたいと考えている。

本年度、全体テーマは「仲間とともに育む柔軟な思考力」～基盤となる論理的思考力を高める授業づくり～と題し、柔軟な思考力を身につけるために大切な思考スキルを考え、授業の中で意識することとなった。

体育科では、分類する、関係づける、比較する、類推する、構想する、評価するなどの思考スキルを用いながら、思考活動を通して見つけた関係性や規律性をもとに、課題解決の方法を考えたり、課題解決に向けた自分の学習活動をどのようにすすめるかをデザインする力（構想する）をつけさせたいと考えた。そして評価することによりもう一度修正して取り組むことによって論理的に考える力が育つと考えている。

今回の創作ダンスの単元でも、協同学習の班の仲間とともに、それぞれが描いたイメージを話し合ったり、ひと流れの動きを見せ合わせたり、またペア班やいくつかの班で見せ合ったりしながら、自己課題の解決や班の課題の解決に向けてみんなで取り組ませたいと思っている。

そして、その成果を解決するために自分の感じ方や動きの工夫、よいところを認め合って楽しく交流したり、成果を確かめる発表の仕方や評価の仕方を理解して工夫できるようにと考えている。

3. 単元の指導目標

- ・イメージをとらえて即興的に表現し、ひとまとまりの表現にして踊らせる。
- ・動きに変化をつけて表現して踊ったり、日常的な体の動きを大きさにメリハリをつけて踊る表現技能を身につけることによりダンスの楽しさをより味わわせる。

- ・のびのびと表現し、仲間と共感しあって踊ったり見せ合ったり表現を分かち合う喜びを味わわせる。

4. 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 創作ダンスの楽しさや喜びを味わうことのできるよう、お互いの良さを認め合おうとしている。 2. 感じをこめて動く楽しさを味わおうとしている。 3. 健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。
イ 思考・判断	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 2. 創作ダンスの課題解決の方法を理解するとともに、発展の方法を選択してグループや自己の課題に応じた動きを考え、交流や発表を工夫することができる。
ウ 技能	<ol style="list-style-type: none"> 1. イメージをとらえた動きを全身を極限まで動かし大きな動きで感じを込めて踊ることができる。 2. 創作ダンスの特性に応じて、交流ができるように、イメージをとらえた表現や踊りをするための動きを身につけている。 3. テーマにふさわしいイメージをとらえ、個や小集団（班）で、対局の動きや空間の使い方に変化をつけて表し、イメージを深めて表現することができる。
エ 知識・理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 創作ダンスの特性や表現の仕方などを理解している。 2. ねらいや学習の仕方などの見通しがもてている。

5. 単元計画 10時間（◎は本時で8時間目）

	学習内容	教師のねらい	中心となる思考スキル	評価規準
はじめ	○オリエンテーション（1時間）	・学習のねらい、学習内容、学習の進め方の確認させる。	・単元の見通しを持ち自己課題を設定する。【順序つける】【類推する】【構想する】	イー2
なか	<p>ねらい1 いろいろなテーマによる表現 身近な題材や音楽などのいろいろなテーマから、表したいイメージをとらえ、ひと流れの動きに工夫して即興的な表現を楽しむ。</p>			アー123
	○班で楽しくリズムにのって ・教師と一緒に ・仲間と一緒に（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムにのって軽やかに動くことを楽しませる。 ・リズムの刻みの楽しさを味わい、仲間と呼吸を合わせて踊らせる。 ・ダイナミックに大きく動くことが大切だということをつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の動きをまねてリズムに合わせて動く。 ・音楽を手がかりとして、仲間とともに身体を動かすことを楽しむ。【類推する】【関係づける】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの3つの約束 1、恥ずかしがらずに堂々と！ 2、思いっきり身体を動かそう！ 3、仲間の表現や意見を認めて楽しもう！ </div>	
	○新聞紙（1時間） ・新聞紙の通り動く。 ・2人組でお互いを動かす ・ひと流れの動きで ・見せ合い	<ul style="list-style-type: none"> ・体をエネルギッシュに使い、恥ずかしい気持ちをもつ隙を作らず思いきり動けるようにさせる。 ・新聞紙の通りに動かせる。 ・2人組でお互いを動かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙の通り動く。「フワフワァー」「グシャグシャ」「パタン」などの擬態語を使いイメージを持つ。【類推する】【比較する】【評価する】 	

<p>○オノマトベ(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを使って ・それぞれで ・班で ・ひと流れの動きで ・見せ合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひと流れの動きを作り見せ合いをさせ、お互いの良さを認め合わせる。 ・カードから3連の擬態語をイメージさせ、動きに転換させる。 ・変化のある3連の擬態語をイメージさせひと流れの動き 	<ul style="list-style-type: none"> ・「納豆」(ネバネバ、グチャグチャ、ネトォー)などのイメージを言葉にし、身体で表現する。 <p>【分類する】【関係づける】【比較する】【類推する】【評価する】</p>	<p>アー123 イー12 ウー12</p>
<p>○「走るー止まる」 「走るー跳ぶー転がる」 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれで ・班でひと流れの動きで ・見せ合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い切り走りピタッと止まる、思いきり跳ぶ、動きの高低の変化を生かし、たくさんのイメージを見つけさせる。 ・仲間と動きを提案しあって短いひとながれの動きを踊らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手拍子やその場足踏みなどでピタッと止まる事を意識し、おもいきり身体を変えてポーズで止まる。運動課題「走るー止まるー走るー止まるー止まるー止まるー止まる」 <p>「走るー跳ぶー跳ぶー転がる」</p> <p>【分類する】【関係づける】【比較する】【類推する】【評価する】</p>	<p>アー123 イー12 ウー12</p>
<p>○「スポーツデッサン」 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれで ・班でひと流れの動きで ・見せ合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなスポーツの中から気に入ったイメージを3つの場面にデフォルメし、ひと流れの動きにして踊らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなスポーツをデッサンし印象的なシーンを思いつくまま動く。 <p>【分類する】【関係づける】【比較する】【類推する】【評価する】</p>	<p>アー123 イー12 ウー123</p>
<p>○「伸びるー縮む」 (3時間)</p> <p>○運動課題の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれでゆっくりだけで ・ゆっくりと素早くを混ぜて ・何回か繰り返して ・ひと流れの動きで ・見せ合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の隅々まで意識し、極限まで使わせる。「何が伸びていくのかな?」「固まってみよう」など ・「ゆっくり」と「素早く」のメリハリを出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を空間・速度とも極限まで動ききることとどんな事をイメージするか考え動く。 <p>【分類する】【関係づける】【比較する】【類推する】【評価する】</p>	<p>アー123 イー12 ウー123</p>
<p>◎イメージを持ってひと流れの動きで動く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班でイメージを話し合いテーマを決めて動く ・見せ合い ・分析し再度班のイメージを持って動く 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの班に合うイメージを出し合い、テーマを設定し、班で短い作品を創らせる。 ・見せ合わせてお互いの違いを認め合わせ、さらに動きの工夫をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしたテーマを表現するためにさらにどう動けばいいか、どう組み合わせればいいのか考え動く。 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに見せ合うことで違いを意識し、さらなる動きに発展させる。 <p>【分類する】【関係づける】【比較する】【類推する】【評価する】【構想する】</p>	<p>アー123 イー12 ウー123 エー12</p>
<p>○発表会に向けての取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班のテーマに沿ったひと流れの動きを整理工夫し、躍り込ませる。 		

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会と振り返り（1時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きを互いに見せ合い、よいところを認め合い、高め合わせる。 ・評価カードへ記入させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの作品のどこがよかったのかをしっかりと観させる。 <p>【分類する】【関係づける】【比較する】【類推する】【評価する】</p>	アー123 イー12 ウー123
-----	--	--	--	------------------------

6. 本時の目標（8時間目）

- ・仲間と協力しながら意欲的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
- ・互いに動きを見せ合ってよさを認め合い、アドバイスすることができる。（思考・判断）
- ・課題解決をめざし、動きからイメージをとらえ、イメージと動きをつなぐ。（思考・判断）
- ・表したいイメージを素直に表現し踊ることができる。（技能）

7. 本時の展開

	学 習 活 動	教 師 の 指 導	備 考
はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーミングアップ ・音楽のリズムに乗って ・ダンスサーキット <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題を確認し、1時間の流れを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に声をかけてリズムカルに進めさせる ・リーダーを交代しながら声などを出させ楽しく行わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題の確認をさせ、それぞれの課題や班の課題、1時間の流れを理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時の課題 「伸びるー縮む」の運動課題からイメージしたものを班でひと流れの動きにして踊ろう！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【構想する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の課題から個人や班の課題の確認と課題の解決方法をデザインさせる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとのカラーゼッケン ・CDラジカセ ・各班のめあてカード
なか	<ul style="list-style-type: none"> ○運動課題「伸びるー縮む」に取り組む。 ・班で表したいイメージを組み立てて動く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペア班で見せ合う ・もらったアドバイスを元に表したいイメージに合う動きを再度組み合わせ、動く。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体を2つに分けて見せ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班のイメージから出てきたテーマに合った動きを話し合い、組み立てさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【比較する】【類推する】</p> <p>運動課題から見つけたイメージを出し合い、整理し、班の動きに組み立てさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今できているところまでをペア班で見せ合い、お互いの良さ（それぞれの発想や動きの違いの良さ）を評価させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価する】【比較する】【関係づける】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫している点やイメージからの動きでよかった点などの意見交流をさせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンバリン ・アドバイスカード

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・班会議 ・全体会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題が解決できたか振り返りを行い、次時の課題をたて、デザインさせる。 ・各班の振り返りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ノート ・班ノート
		<p>【評価する】【構想する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もらったアドバイスをもとに振り返り、さらに工夫点を見つけ、次の課題を決定させデザインさせる。 	

8. 結果と考察

【発表会での他班からの感想やアドバイス】

<p>1班 テーマ「深海」 (よかったところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ動きが何回も出てきて、脳裏に焼き付き、効果的だった。 ・速い動きからゆっくりの動きがあってよかった。(工夫したほうがよかったところ) ・最後にみんなで手を挙げるのは何を表現しているかあまり伝わってこなかった。 ・みんな同じ動きだったのでバラバラな動きもあってもよかった。 	<p>2班 テーマ「あっ、火事だ！」 (よかったところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足で炎を表現しているのがおもしろかった。 ・声かけがあってよかった ・消防士が出てきておもしろかった。(工夫したほうがよかったところ) ・炎の表現がみんな同じ動きだったのでそれぞれ違う方向にのびたりしてもいいと思う。 ・もっと伸びてるっという動きをして止まった方がいいと思う。
<p>3班 テーマ「細胞分裂」 (よかったところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな同じ動きだけれど動きを一人一人ずらす工夫をしてよかった。 ・細胞が分裂したりくっついたりするところのデフォルメがおもしろかった。(工夫したほうがよかったところ) ・はじめの部分はもっとおもしろい伸びて、きちんと止まるといいと変化がつくと思う。 	<p>4班 テーマ「ピザ」 (よかったところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ動きがハッキリしていて、チーズが伸びたり、ふくれたりと、とても工夫されていておもしろいなと思った。 ・こねられている時にそれぞれ違う動きをしていてとても良かった。 ・身体全体で大きく伸び縮みができていた。 ・ピザのチーズが伸びるところは班全員が高さを変えながら脚を掴んでつながって最後にちぎれるところがピザの様子をよく表現していた。 ・発想やストーリーもおもしろかった。
<p>5班 テーマ「微生物」 (よかったところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下にかぶさったり、ウネウネ動いているのが、微生物だと思わせる動きだった。 ・微生物をデフォルメするアイデアがすごい。(工夫したほうがよかったところ) ・ずっと寝そべったり座ったりの動きだったので、高い位置での動きもあっても変化がついてよかった。 	<p>6班 テーマ「花の一生」 (よかったところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねじれながら縮んでしぼんでいくところがよく感じが伝わって来た。 ・つるが回りながら伸びていてよかった。(工夫したほうがよかったところ) ・ストーリーが短く山場がわかりずらかった。

7班 テーマ「ガム」

(よかったところ)

- ・ 噛む所の表現はわかりやすかったが割れるところが分かりずらかった。
(工夫したほうがよかったところ)
- ・ 最後の割れる所はそれぞれが縮むのではなく、みんなが集まり、大きく割れた方がよいと思った。
- ・ ガムを噛む所はもっと激しく動いた方が割れるときの変化に繋がる。

8班 テーマ「反抗期」

(よかったところ)

- ・ 感情を表現するという発想がおもしろい。
- ・ 素直な感情の時は順番に伸びていたり、また、迷っていたり、怒っている時はバラバラな動きが対照的でよく伝わって来た。
(工夫したほうがよかったところ)
- ・ 怒っている時はみんな違う方向を向いて伸び縮みをする方がもっと伝わった。

9班 テーマ「イソギンチャク」

(よかったところ)

- ・ 「パーッ」と手を伸ばすところがエサを食べようとしているみたいでおもしろかった。
(工夫したほうがよかったところ)
- ・ 限界まで伸びきれておらず、恥ずかしさが会間見られたので、残念ながらイソギンチャクには見えにくかった。
- ・ ストーリーがよくわからなかった。

10班 テーマ「おもち」

(よかったところ)

- ・ おもちをついている様子がとてもうまくデッサンされ、表現できていたのでよく伝わって来た。
- ・ お米から何度もついていくうちにおもちに変化していくところがおもしろかった。
- ・ 伸び方を変えるために人数を増やしていくのもおもしろかった。
(工夫したほうがよかったところ)
- ・ 杵を持ってついている人がもう少し大げさな動きにデフォルメして動けたらもっとおもしろい作品になったと思う。

【生徒達の授業を終えての感想】

- ・ はじめてダンスをした時は難しいなと思っていたけれど、今はいろいろなものをイメージしてそれを動きで表現するのは楽しいなと思います。それに同じ「走る-跳ぶ」や「伸びる-縮む」でも、人それぞれどんなものをイメージするかが違ったり、同じイメージや動きを班で組み合わせ、みんなで協力して一つの作品を創ったのはとても楽しいし、いろいろな発見がありました。班で作品を見合ったのも、いろいろなストーリーやそれに合わせて動きがあって、驚きました。また機会があればみんなで協力して一つの作品をつくれたらいいなと思います。

- ・ それぞれテーマが毎回代わり、そのテーマごとに自分になりきるものが違うので、その度考えて動けたと思います。はじめはみんなに見られると思うと恥ずかしかったけれど、スポーツ課題くらいから全然恥ずかしくなくて、思いきって動くことができました。シンクロでも、みんなでデフォルメを工夫し、表現できたし、ピザもこねられている様子、焼かれる様子、食べられる様子までストーリーをしっかりと考え、ピザになりきって表現できました。みんなの発表もおもちがすごく印象に残り、デッサン力もすごくあり面白かったです。はじめの思いとは今は全然違う思いで、楽しく動きました。



〈アドバイス交換〉



〈班での動きづくり〉

- ・「ダンス」、初めそれを聞いた時、附中杯（体育祭）の時みたいなリズムダンスを想像していたので、創造力とか必要とは思っていませんでした。でも、創作ダンスにはとても大切な事なんだと思いました。色々新聞や運動課題などやってきて、たくさんの大きな動きや、限界まで伸ばす事の楽しさと大切さを知ることができたと思っています。1つの班だけで考えるのじゃなくて、他の班からのアドバイスなど、そういうのも協力し合えるおかげでした。



〈のびて～ もっと指の先まで～〉

- ・ダンスを体育でやると聞いたときはただ単に踊るのかと思っていたけれど、授業は全く違って、ただ踊るだけではなく順にやっていき、自分が思っていたのとは違いとても楽しく進みました。言葉で伝わらないことも伝えられるすばらしさが分かって、この単元を習ってよかったなと思うようになりました。また、動いていることの楽しさ、おもしろさが分かりました。私の班もそうなのだけれど、テーマを決めて、一所懸命話し合っ動きを決めて、とても楽しかったです。そして、それぞれにやってきたものを皆の前で発表して、拍手してもらって、それがとても気持ちよくて、もっとダンスしたいと思うようになっていました。また、他班のよいところやもっと直せばいいと思うところなどが探せた事も、よかったです。

- ・様々な動きを使う創作ダンスは確かに難しいけど、その分とても楽しかったです。自由に動いたり、その物になりきって動くなるとは初めてでしたが、身体全体を使っておもいっきり動くことは楽しかったです。

- ・私はダンスが好きなので、この単元は楽しくできました。「伸びる－縮む」の時は動きがよくわかりませんでした。しかし、日々色々な動きを見ることで動きが色々なアレンジでいっぱいあり、班のウォーミングアップも楽しかったです。また、班の「伸びる－縮む」もストーリー性とかいろいろな面で話し合う事があったし、班のまとまりも強くなったかなと思いました。

- ・私は一番最初恥ずかしい感じがして、大きなダイナミックな動きはできていなかったけれど、ダンスをやっていくうちに動くのが楽しくなってきました。研究会でやった「伸びる－縮む」では最初恥ずかしい気持ちでいっぱいだったし、伸びきるや、縮めるところまで縮むということが本当に恥ずかしかったけれど、目一杯伸ばしたり、縮まったりする事ができたと思います。ウォーミングアップでは毎回毎回やっていくうちに、みんなの動きがよくなっていて、ダイナミックな動きができていました。また、創作ダンスの時は他の班の動きを見る事でよい刺激になるし、あー、そんな動きもあるんだなと思いました。班で協力して意見を出し合うのも、たくさんの案が出るし、おもしろいなというも感じていました。

・考えるというおもしろさを知りました。そして一所懸命考えたのを発表して拍手がいっぱいあればとてもうれしかったです。そんな拍手がほしいから一所懸命考えておもしろいアイデアや声をだしたりしました。初めてダンスをしたとき「おもしろね」と思っていたのですが、もう今は「めっちゃおもしろいやん」と思っています。また、ダンスがあればやりたいです。



〈全体会議 今日の振り返り〉



〈それぞれの班での練習〉

・ダンスの単元を終えて「とても楽しかった」というのが一番思っていることです。とくにスポーツの動きをデフォルメをいれて表現するところがとても楽しくて考えていられることができるととても嬉しく楽しいと思えました。いつもは振り付けをまねをするダンスだったけど、今回は自分で考えるダンスで楽しかったし、クラス的环境が踊りやすく、イメージしやすいものとなっていました。



〈それぞれの班での練習〉

・創作ダンスをすると聞いた時、正直いやだなと思いました。みんなの前で自分が考えた動きを発表したり見せ合ったりするのは得意ではなかったし、恥ずかしいと思っていたからです。でもだんだんやっていたら楽しくなってきた、大きく動けるようになってきました。それに自分から班のみんなに意見を言うこともできるようになりました。「伸びる-縮む」の時間が一番イメージしやすかったです。班で協力することができて、身体を大きく動かすこともできたのでよかったです。

・はじめは恥ずかしさばかりであり創作ダンスが楽しいと思いませんでした。でも、何回も授業を受けていくうちに身体で何かを表現すること、創作ダンスの楽しさがわかるようになりました。私も他の人の動きを見て、みんな初めのころより、身体の動かし方が変わっていると思いました。動きも大きくなったし、発想も豊かになったと思います。また、「こんな動きもあるんだなあ」とほかの動きを認めることもできました。



〈ピザのチーズがピロロン〉

【結果と考察】

創作ダンスに限らず、表現は、非論理的な思考から始まる。そしてその中で自分で感じたり描いたイメージを言語化（簡単な動き言葉も含む）し説明でき、次にお互いのイメージから発する動きなどを見せ合い、仲間に説明することにより、自分の考えを人とすりあわせることが必要とされる。そして、さらに振り返ることにより、もう一度自分に戻し、そこで得られるものこそが、論理的な思考だと考える。

創作ダンスは、イメージを自由に表現して踊る、創造的で自発的な学習が中心である。それぞれが授業を生き生きと展開させるためには、まず、表したい対象と出会うこと、次に、何をどのようにしていくかという学習の進め方への理解や見通し力（デザインする力）をつけること、そして仲間との協力的な関わりが必要とされる。

今回の授業では、まず始めの段階で、イメージを自由に表現して踊れる雰囲気作りに力を注ぎ、いろいろな仕掛けを駆使した。

そのひとつとしては、まずダンス単元のとっかかりとなるダンスウォーミングアップである。ダンスウォーミングアップは全力を出し切れるような自由な雰囲気とパワーを大切に、気軽にリズムに乗って楽しめるように、選曲や教師からの言葉かけ、発展させられそうな簡単な動きの提示などの仕掛けから始まり、全体から個人へ、個人から班へ、班から個人へ、そして班から他班や全体へ広げていき、お互いの気分を盛り上げるための声や手拍子なども入れながら友達と交流し、共感して踊る場を作った。

また、動きの高まりとお互いの信頼関係、そして場や空間の使い方にも発展するための仕掛けを行った。その結果お互いがそれぞれの動きを認め合い、リズムに合わせて身体を動かすことの楽しさを味わうことができた。どんな動きもすばらしく値打ちのある動きであるということを確認し、また、全身を大きく動かすためにはどこをどう工夫すればさらに良い動きになるのかをアドバイスし合うこともできた。そしていつしか恥じらいも薄らいでいった。

続いてイメージや動きを広げるための仕掛けとしては、連想言葉ゲームやオノマトペなどを行い、一つの言葉でもいろいろな感じ方があり、動かし方やイメージを広げることができることを感じとった。この豊かな感じ方が、動きに発展させられる独創的なイメージにつながったと考える。

そしてそれぞれが課題の持ち方を工夫し、お互いの個性を発揮し、丸ごとの自分を投げ出して意欲的に取り組む事ができた。

また、その課題を解決するために、自分の感じ方や動きの工夫、良いところを確認合って楽しく交流したり、成果を確かめる発表の仕方や評価の仕方を理解して工夫できたと思っている。

今年度は「仲間とともに育む柔軟な思考力」～基盤となる論理的思考力を高める授業づくり～が全体のテーマであり、8つの思考スキルを用いながら授業実践をする事となった。

体育としてのテーマは「デザインする力を高めるための教科指導のあり方」～自己の課題に応じた取り組み方の工夫を目指して～であり、体育科が従来より大切にしている授業スタイル（課題解決型の授業とグループ学習）と求めるところはなにも変わっていない。

そのため、あえてピタッと8つの思考スキルに当てはめてしまうことが困難であり、ましてや、創作ダンスの単元では非常に難しかった。それゆえ、教師が単元をしっかりと捉え、描き、デザインし、どこで何をどう仕掛けるかが今まで以上に大きなポイントとなってくる。教師がきちんと8つの思考スキルを意識し、授業を組み立てることで、自然にそれぞれの思考スキルを使いながら生徒達の思考力も高まり、高め合えることができるということが、改めてアドバイスカードや感想から読み取ることができた。

創作ダンスという生徒達にとっては初めてで、どちらかというマイナスなイメージの単元も発表会を終えた後も「まだやりたかった」や「すごく楽しかった」や「何を表現してもいいクラスで良かった」などプラスな感想を大半の生徒が書いてくれていたのもうれしかった。

今回、思考力とは正反対のところからスタートした創作ダンスではあるが、体育科として他教科とは違う暗黙知を大切にしながら、仲間と協力しながらお互いを認め合い高め合っていける授業を教師もきちんとデザインし、思考力が高まるようなたくさん仕掛け作りをした授業を工夫していけたらと考えている。

1. 単元名 武道（柔道）

2. 単元観

中学校では平成24年4月より武道が必修となり、すべての生徒が武道の特性に触れ、我が国の文化や伝統を尊重する態度を身に付けることができるよう、武道学習の充実を図っていく必要がある。この学年の生徒は第1学年に柔道に取り組んでおり、事前アンケートにも「もう1度柔道がしたい」や「もっと深く学習したい」という意見が多く見られた。

柔道は、柔道着を着用し、相手と組み合って投げ技や固め技で攻防する対人的スポーツである。相手の動きに応じて、相手の力を上手く利用して技を競い合うところ楽しさがある。学校現場での事故の多さが取り上げられ、その危険性が指摘されている事実もあるが、授業では「本気で投げる」ことを目標に、柔道の特性を味わえるよう取り組み方を工夫したいと考えた。そこで、学習する技を「支え釣り込み足」・「大外刈り」・「大内刈り」・「体落とし」に設定し、それぞれの技の仕組みや構造を生徒がそれぞれの目線で考えることや、投げるためには何が必要かを見つけることに注目させたい。保健体育科では、「デザインする力を高めるための教科指導の在り方」を研究主題に掲げ、単元全体を通して生徒が自己の能力に合わせて課題を設定し、関係づける・比較する・順序づけるなどの思考スキルを用いながら課題解決の方法を探したり、自らの学び方をデザインする（構想する）力を身に付けさせたい。また、教え合い・学び合いという視点からも、1対1というもっともシンプルな対人関係から班や全体の学びへの広がりにも期待できると考えている。

3. 単元の指導目標

- ・柔道に自主的に取り組むとともに、互いに相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にすることや健康・安全に留意することができる。
- ・自己の課題に応じた技を習得するために、協力して練習や試合の仕方を工夫することができる。
- ・武道の精神を体感し、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる投げ技や得意技を用いて攻防が展開できる。

4. 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	1 柔道の特性に関心を持ち、その楽しさや喜びを味わっている。 2 仲間と協力して、互いに教え合い、進んで練習や試合に取り組んでいる。 3 勝敗に対して公正な態度を取り、安全に留意して活動している。
イ 思考・判断	1 自己の能力に適した技を選び、仲間と関わりながら練習の仕方を工夫している。 2 技のできばえを確かめながら、自分や相手の課題を考えて練習している。 3 簡易な試合を通して、自己の課題を見つけている。
ウ 技能	1 柔道の特性に応じた基本動作や受け身、対人的技能を身に付けている。 2 相手の動きや技に対応した攻防を展開して練習や試合をしている。
エ 知識・理解	1 技の仕組みや構造、系統性について理解している。 2 柔道を安全に学習することの意義を理解している。 3 技のできばえをしっかりと分析し、評価することができる。

5. 単元計画 12時間 (◎は本時で9時間目)

	学習内容	教師のねらい	中心となる思考スキル	評価規準
はじめ	①オリエンテーション ②体ほぐしの運動 ③基本動作	・柔道の特性、学習のねらいや進め方をつかむ。 ・柔道につながる動きの基礎を身に付ける。 ・柔道の基本動作を身に付ける。 (姿勢・組み方・体さばき・崩し・受け身)	・柔道の特性を理解し、自己の能力に応じた課題を設定する。 【順序づける】 【類推する】 【構想する】	ア-1 エ-1 ア-1 ウ-1 エ-2
なか	④今できる技を確かめる	・自己の能力に応じたためあてを決める。	・自分に合った技を選ぶ 【類推する】 【関係づける】 【構想する】	イ-1 ウ-1
	ねらい① 柔道に必要な基本動作と技を身に付けて楽しむ。			
	⑤～⑥投げ技の基本動作 支え釣り込み足 大外刈り・大内刈り 体落とし	・それぞれの技の仕組みや構造を理解した上で習得のために工夫する。	・ポイントを押さえて、課題に応じた練習を考える。 【構想する】 【分類する】 【比較する】	ア-12 イ-12 ウ-1 エ-123
	ねらい② 身に付けた技能を用いて、相手を崩して投げる感覚を味わう。			
	⑦～⑨崩しから投げ技へ ◎	・投げるために必要なポイントに気づき、練習を工夫する。	・技能を修正する。 【構想する】【評価する】	ウ-2 エ-3
まとめ	⑩⑪班別対抗戦 ⑫学習のまとめ 振り返り	・簡易な試合のルールや仕方を工夫する。 ・対抗戦を通して技のポイントと自己の課題を整理し、柔道の理解を深める。	・練習や試合によって高まった技能に気づく。 【評価する】【要約する】	ア-3 イ-3 ア-1 イ-23 エ-123

6. 本時の目標

- ・仲間と協力して、互いに教え合い、進んで練習や試合に取り組むことができる。【関心・態度】
- ・相手の動きや技に応じた攻防を展開して、自己に合った技を繰り出すことができる。【技能】

7. 本時の展開

	学習活動	教師の指導	備考
はじめ	・全体集合 あいさつ ・準備運動 ・課題の確認	・班で集合し、出欠確認や健康観察を行う。 ・柔道の動きを意識したものになるよう声かけをする。 ・本時の課題をつかみ、自己のめあてとの関連を意識させる。	学習ノート 学習カード
なか	ねらい② 身に付けた技能を用いて、相手を崩して投げる感覚を味わう。		ビデオ PC 電子黒板 プロジェクター
	・一畳柔道 ・投げ技の練習 ①かかり練習 ②約束練習 ③自由練習 ・班別対抗戦(簡易な試合)	【比較する】・相手を観察するポイントを見つける。 ・相手をよく観察し、理解できるように声かけを行う。 【構想する】・相手を投げるために必要な条件を考え、自分に合った練習を工夫する。	
まとめ	・整理運動 ・学習ノート記入 ・全体会議 ・あいさつ	【評価する】・練習によって、自己の技能の高まりや、仲間とともに高まった力を感じる。 ・健康観察、学習の振り返り、次時への意欲喚起を行う。	学習ノート 学習カード

8. 結果と考察

今回の実践では、「本気で投げる」を目標に柔道の特性を味わえる取り組み方を工夫できるように単元計画を構成した。その中で、生徒それぞれが自己の課題を設定し、本気で投げるためには何が必要かを考え、自己に合った練習の仕方を工夫していく上で論理的思考力が高まり、そこで考えた事や感じた事をさらに次の課題解決に活かしていくという工程を積み重ねていくことで、それらは柔軟な思考力へと繋がっていくのではないかと考えた。

論理的思考力を高めるために、仲間との関わりを大切にしながら、いかに8つの思考スキルを使わせるか。また、使いたくなる現象を起こすかが大きな課題であった。教師が単元をよく理解し、どのような道筋で、どんな力を身に付けさせたいかを整理し、そのための仕掛けを考える必要がある。まず、今実践では身に付ける技を「大外刈り」「大内刈り」「体落とし」「支え釣り込み足」の4つに設定し、それぞれの技の特性を分類させることから取り組んだ。その際に、技をかける人・技をかけられる人・見ている人の3パターンの情報を取り込むことでより深みのある思考を期待した。また、電子黒板などのICT機器を活用することで、自分自身を見ることができ、関係づけるや比較するなどの思考スキルにも自然と発展していったことは成果のひとつである。

次に、教え合いや学び合い、学習ノート、班会議を中心とした言語活動から論理的思考力を高める取り組みである。単元当初は学習ノートの書き込みや生徒のつぶやきには、2～3の思考スキルしかみつけることができなかった。そこで、自己の課題だけでなく仲間の課題も意識できるようにそれぞれの本時のめあてをプロジェクターで映し、共有できるように仕掛けた。そうすると、お互いに声をかけ合う場面がみられるようになった。何を伝えるのか、どのように伝えるのかなどもう少し明確にする工夫ができれば、より充実した教え合い、学び合いになったのではないかと反省する所である。また、それぞれの課題に対し、それを解決するための練習方法や道筋を考える中で、よりその本質に迫る解決方法を選択するための手だてをうまく仕掛けることができなかったのも反省点である。「少しコツがわかった」や「どうすれば相手が崩れるかがわかった」などの生徒の気づきをうまく拾い上げ、同じような課題を持つ生徒に還元できるようにするなどの工夫があればよかったと考える。

しかし、単元を進める中で私自身も少しずつ授業展開に改善を加えることで、生徒の思考の仕方による変化が現れたことも実感することができた。生徒自身は当然意識している訳ではないが、8つの思考スキルを自然と使えるようになってきた者がいたということ。学習ノートを見ても、思考スキルを用いて論理的に思考したと思われる記述があった。そしてその思考が柔道の特性やおもしろさを味わうことに役立っていたことがうれしかった。

保健体育科として、それぞれが自分に合った課題を設定し、仲間との関わりの中から様々な影響を受け、それを解決するために論理的思考力を働かせるという工程、すなわちデザインする力を高めるために、教師としてどんな仕掛けや手だてをすることができるのか。教師自身もしっかりとデザインする力を身に付け、生徒が自然と考えたいくなるような授業展開をしていきたいと考えている。



【ICT機器を活用する姿】



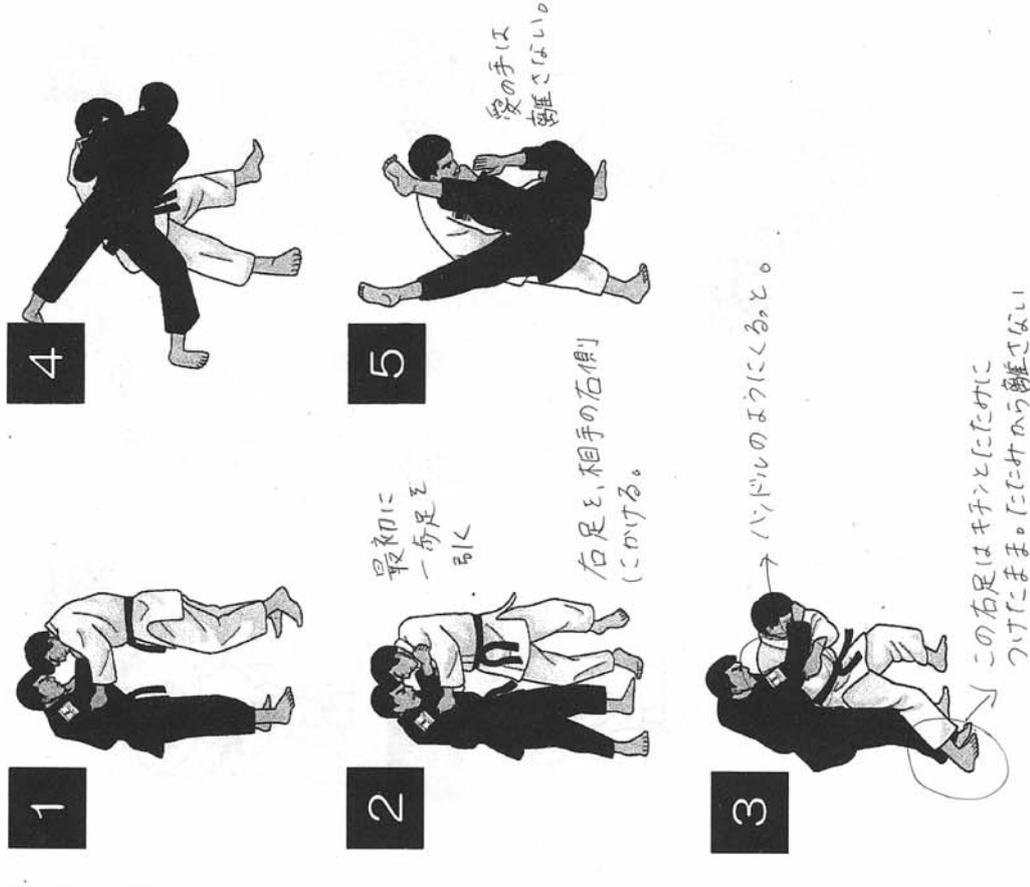
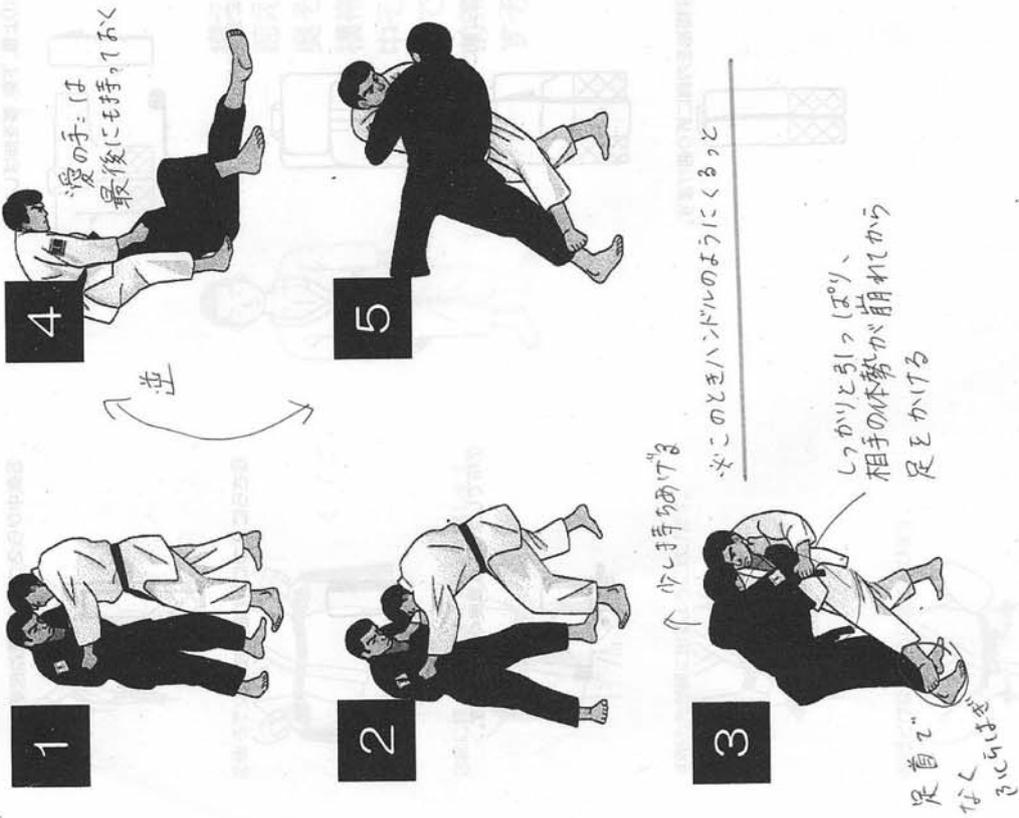
【仲間の技と比べて】



【本気で投げ合う様子】

【学習ノートより 「自分に合った技の説明書をつくろう」】

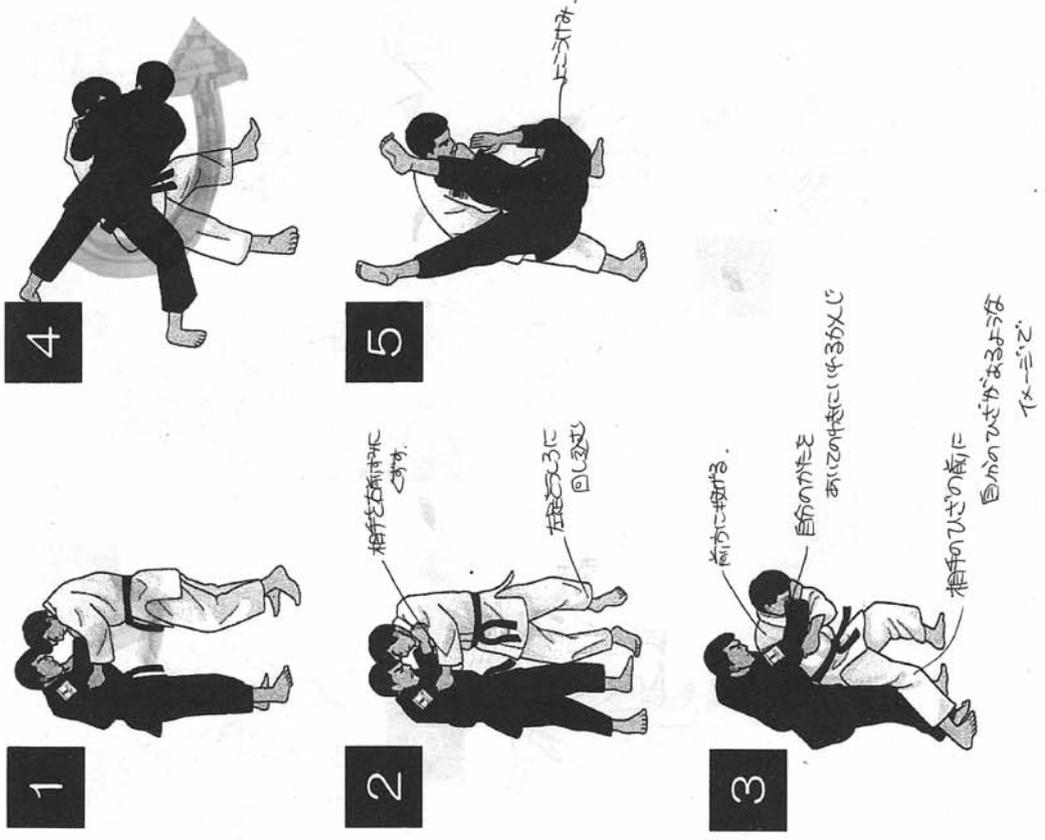
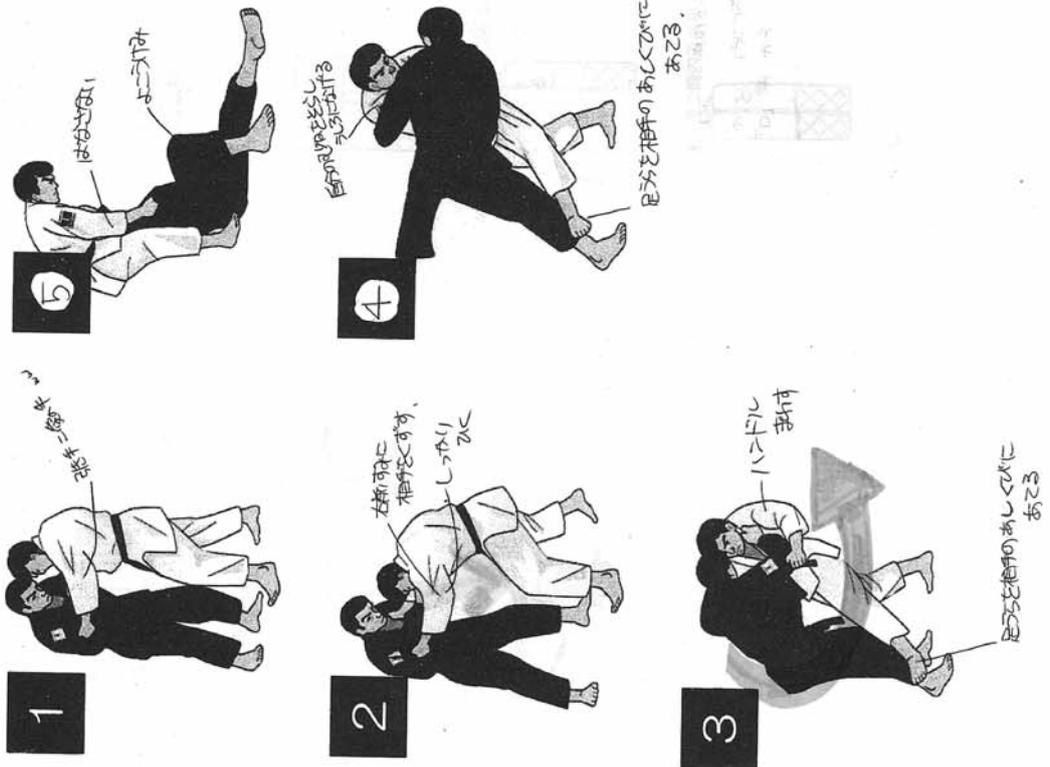
支え釣り込み足



【学習ノートより 「自分に合った技の説明書をつくらう」】

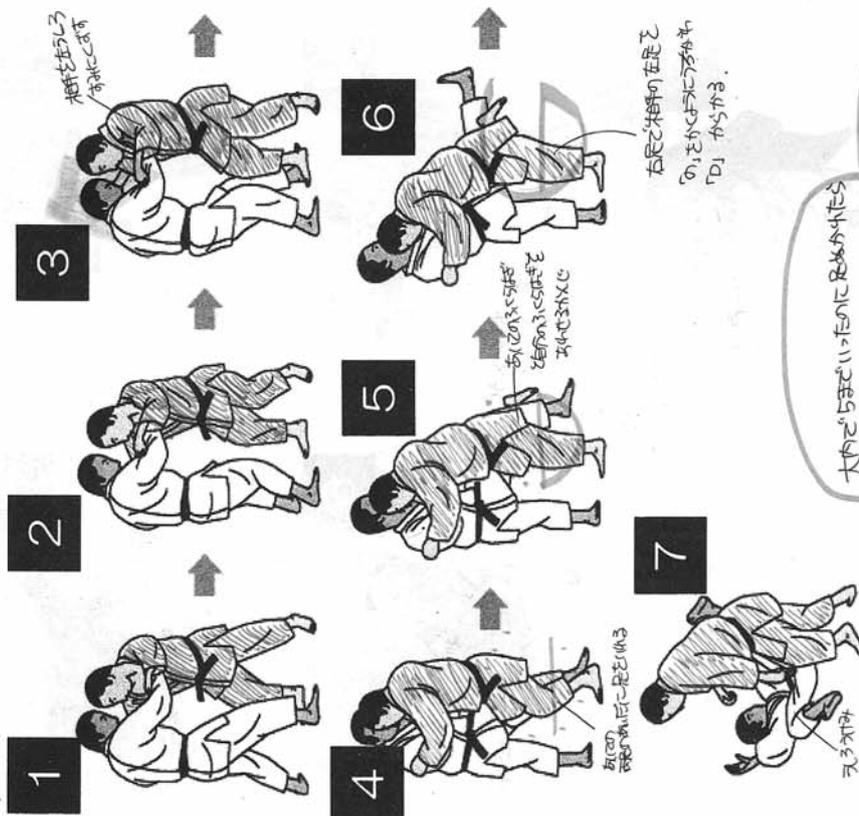
支え釣り込み足

体落とし



【学習ノートより 「自分に合った技の説明書をつくろう」】

大内刈り

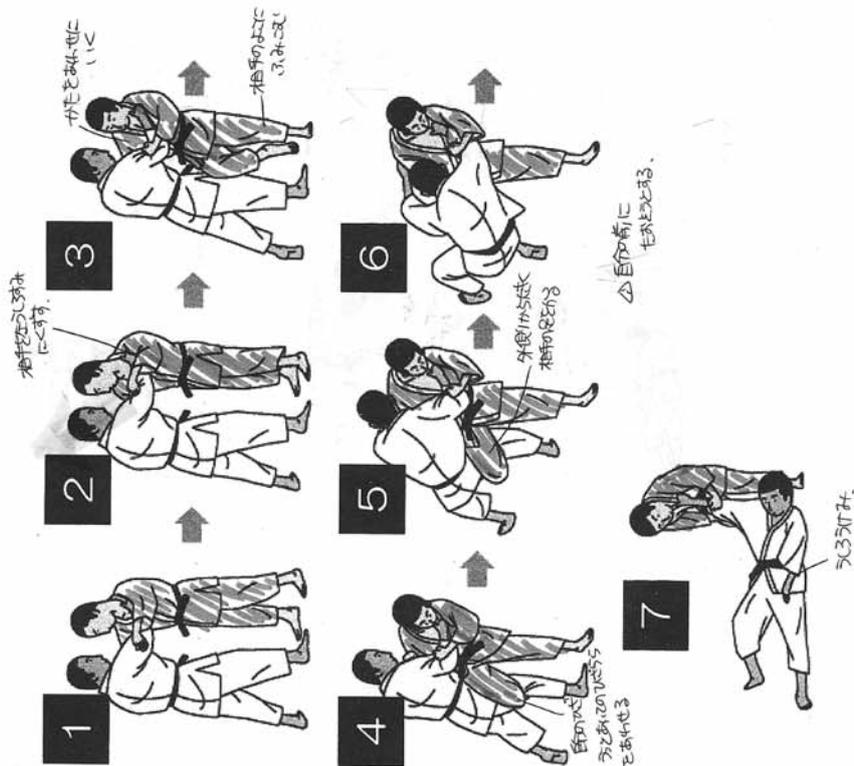


大内刈りとは
相手の胸に右手を置く
右足は相手の足と
同じ高さになるように
「D」からかかる。

大内刈りとは
相手の胸に右手を置く
右足は相手の足と
同じ高さになるように
「D」からかかる。

大内刈りとは
相手の胸に右手を置く
右足は相手の足と
同じ高さになるように
「D」からかかる。

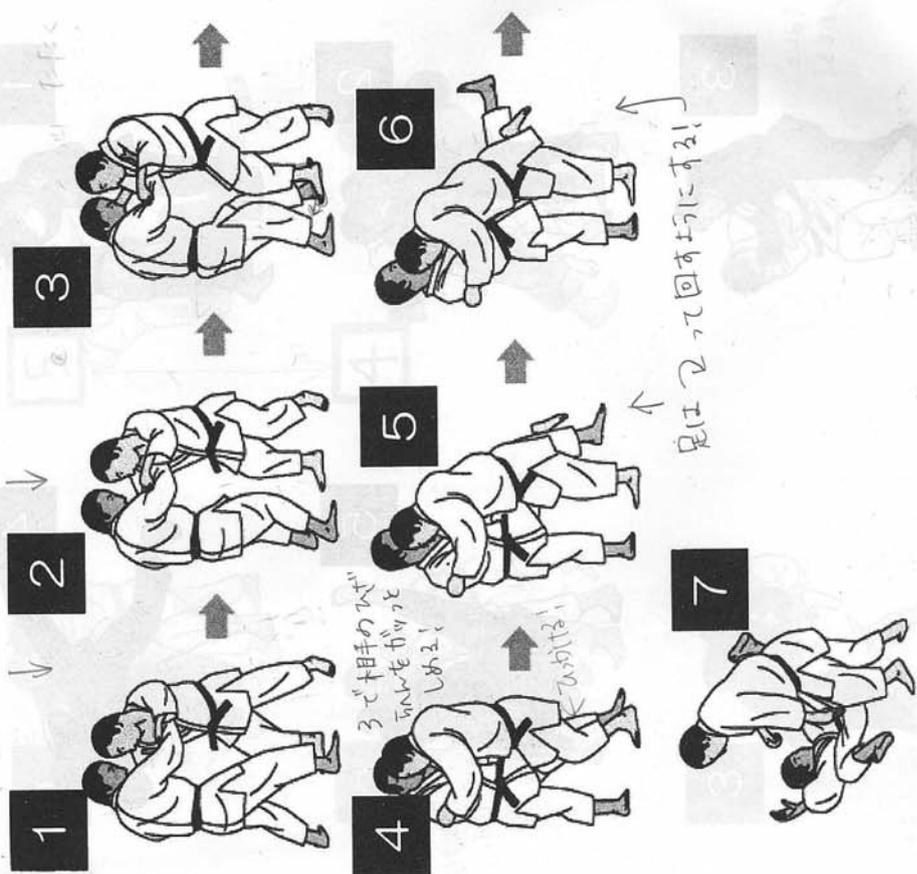
大外刈り



【学習ノートより 「自分に合った技の説明書をつくろう」】

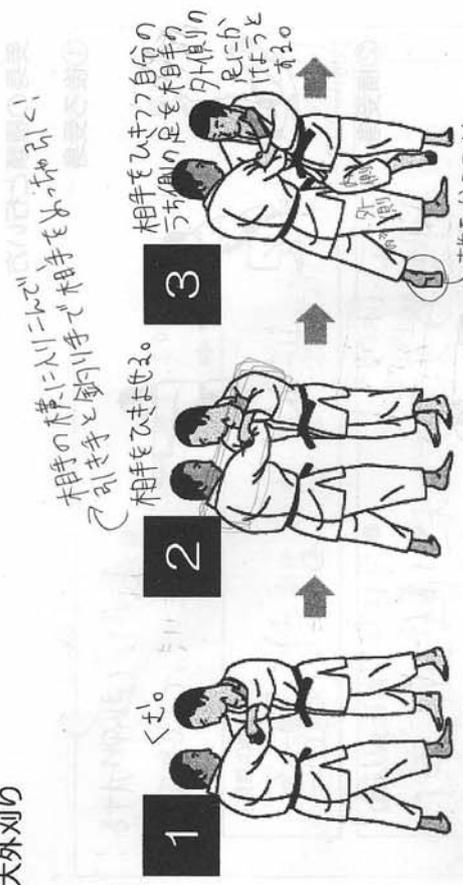
上から見た図

大内刈り
 1. 2. のステップで相手に入る！



仕上げ後に、相手の上に
 かけこみ、二つ折りように
 注意してする。

大外刈り



☆Point☆
 → 相手の横に入り、二つ
 → 両手で相手を自分側へ
 引いて自分より遠い方の足
 (相手の)をつかす。
 → バランスをくずしたのを見て
 倒れにかかえる。



